

とこらば

NAGOYA

26号から
デザインを
リニューアル
しました！

今号の内容

- ② 依存症拠点機関の活動について
- ③ 依存症事業について
- ④ NAT-G／依存症講演会
- ⑤ 市民活動セミナー／ひきこもり家族教室
- ⑥ アルコール問題関係者研修／思春期保健関係者研修
- ⑦ リレーでつなごう！
地域の支援機関<第16回>
「NPO法人 TOBEC」



鳴海ひまわりクリニックデイケア作品

名古屋市精神保健福祉センターは平成30年度に 名古屋市における「依存症相談拠点」となりました。

これは、当センターを「名古屋市依存症相談窓口」であると位置付け、相談機能を強化することで、これまで相談に至らなかった多くの方を支援につなげるものです。

平成30年7月にアルコール・薬物・ギャンブル等の依存に悩むご本人やご家族を対象として「依存症相談窓口専用電話」を開設しました。

窓口には気軽に相談できるように、専任の依存症相談員2名を配置しています。様々な困りごとに對し、専門医療機関や自助グループ等に関する情報提供等を行ない、必要に応じて面接での「依存症特定相談」の予約等を行なっています。

「依存症特定相談」では、相談窓口開設に合わせ、従来の相談に加え、依存症から回復した当事者であるピア相談員による相談を月2回開始しました。実体験を踏まえた相談は、相談来所者の共感が得られやすく、自助グループにつながりやすい等、大きな役割を果たしています。

平成30年7月から令和元年6月までの相談実績は、依存症相談窓口電話が男性173人、女性313人、依存症特定相談が男性39人、女性45人でした。

また、アルコール・薬物教室を「依存症家族教室」と改め、「家族のつどい」では家族プログラム『CRAFT(くらふと)』を取り入れ、またギャンブル問題関係者研修を開始したりと、新たな試みに取り組んでいます。

さらに、ギャンブル障害回復トレーニングプログラム名古屋版の『NAT-G(なっとーじー)』を試行実施したり、取り組みの幅を広げています。



西山クリニックは平成30年10月に名古屋市から「アルコール・薬物・ギャンブルの依存症治療拠点・専門医療機関」の選定を受けました。

依存症治療拠点機関の重要な責務の一つに、専門医療機関を増やすことを目的とした医療従事者研修の実施があります。この1年間ではアルコール依存症の研修会を2回開催し、各回約70名の参加を頂きました。研修は関東や関西方面からも講師をお招きし、アルコール依存症の基礎知識を中心に、家族支援の方法や社会資源の紹介等を行いました。また、自助グループを知り、回復できることを実感してもらうために、当事者本人と家族に体験談を語って頂きました。医師、看護師、心理士、精神保健福祉士等多彩な職種の方が参加され、「具体的で解りやすかった」「家族支援の必要性が理解できた」「1回だけでは理解できない。複数回研修を開催してほしい」などの感想がありました。令和2年には、薬物依存症及びギャンブル依存症の研修会を企画予定です。

また、依存症に関する知識の普及、啓発にも力を入れていきたいと思います。その一つとしてホームページを充実させ、研修会の様子などを掲載しています。一度ご覧ください。
専門医療機関としての取り組みは、今まで通り依存症の本人・家族を問わず、困っている方が受診されればお話を聴かせて頂きます。当クリニックは平成3年4月に開院以来アルコール依存症者及び家族の集団療法や

教育プログラムを実施しており、その後薬物依存症者及び家族も治療に来て頂けるようになりました。平成5年からはアルコール・薬物依存症のデイケアを開設しています。現在は、ギャンブル依存症・摂食障害・クレブトマニアなどの本人や家族の方も通院されています。また、平成30年12月より減酒外来も始めました。依存症は広く深く社会に蔓延し身近に存在するものです。一人でも多くの医療従事者が依存症に気付き、回復への道を示せるように取り組んでいきたいと考えます。



八事病院は平成30年10月に名古屋市から「アルコール健康障害の依存症専門医療機関・治療拠点機関」の選定を受けました。

「依存症専門医療機関」とは、資格を有した精神科医、依存症研修を受けたスタッフ、地域や自助グループとの連携、依存症専門プログラムの提供、等の条件を満たし、依存症に関する専門的な医療を提供できる医療機関です。

また「治療拠点機関」とは、医療機関を対象とした依存症に関する研修、情報発信などを行い、地域の依存症専門医療機関の連携拠点となる医療機関です。

専門医療機関が増えることで、依存の問題を抱える人たちが、より治療を受けやすくなります。その為に治療拠点機関では医療機関を対象とした依存症に関する研修を行っています。情報発信・普及啓発活動を行うことにより依存症の予防にもつながります。

八事病院では平成31年3月、令和元年11月、12月に依存症支援者研修会を開催しました。参加者は訪問看護師や障害福祉サービスの相談支援事業所の相談員といった、対象者の家に出向く職種の方が多数を占めています。アルコール依存症は「否認の病」と言われることもあり、発症から専門治療を受けるまでに何年もかかることが珍しくありません。本人は受診の意思がなく、周囲の支援者が困っている、という現状を再認識させられます。内科などで飲みすぎを指摘されたら、早期に専門治療に結びつけることが肝心です。その為には医療従事者全般はもちろん一般市民への普及啓発が欠かせません。

普及啓発としてかねてから講演活動を行っておりましたが、さらに今年度は昭和区の区民祭にブースを出させていただきました。○×クイズ、アルコールパッチテスト、人体図やパネルの展示、資料配布を行いました。当日は天候にも恵まれ、大勢の方にブースへ来ていただきました。今後多くの人に関心を持っていただけるよう活動をしていきたいです。



依

存

症

事

業

に

つ

い

て



| アディクション・セッション

令和元年11月9日（土）、アルコールや薬物・ギャンブル・食行動など様々な依存症の自助グループや家族グループ、各支援機関などから、活動内容の紹介や、それぞれの立場からの経験や思いを伝えいただきましたことを目的に開催しました。この事業は平成24年度から始め、今年度で8回目の開催ですが、メッセージを届けてくださる団体が年々増え、今年度は18団体にご参加いただきました。また、当センターが依存症相談拠点になったこともあり、関係機関との連携強化や市民の方々への周知を図るために、当センターを会場として開催し、109名の方にご来場いただきました。

まとめ講演では、臨床心理士の西野敏夫氏より、「当事者同士が集まり、安心して話せる場所や仲間を持つことが、やめ続けることを可能にし、回復に有効である。」というお話をいただきました。

| 家族のつどい

当センターの依存症相談に来所され、アルコール・薬物・ギャンブル問題についてご相談されたご家族を対象に、勉強会と家族交流会を月1回開催しています。勉強会では、「CRAFT（クラフト）」という手法を用いて、依存症本人への対応を学びます。

家族交流会では、同じ悩みを持つ家族同士の交流をします。今年度は、1クール6回のプログラムを2回実施しました。毎回5～10名程が参加されました。家族の対応方法を変えることで本人が治療に結びつく確率が高くなり、問題行動が減り、ご家族自身のメンタルケアにも効果があると言われています。

参加者からは「思い悩んでいた事を話すことができ、少し楽になった」「同じ思いをしている人がいる」と分かり、ほっとした」という声が寄せられています。また、自助グループの方を講師にお呼びして模擬ミーティングや座談会を行う会も設けています。

| 依存症家族教室

依存症の正しい知識や対応方法などを学び、身近な方の治療や回復について一緒に考えるためアルコール・薬物・ギャンブルについての教室を1クール4回で2回実施しました。西山クリニック西山仁院長から依存症の知識やメカニズム、治療方法などについて講義していただきました。依存症当事者やそのご家族からは、体験談を通して依存症となったきっかけや心情について語っていただきました。精神保健福祉士からは、依存症本人に対する適切な関わり方や効果的な対応方法について講義していただきました。

来年度も同様の教室を開催する予定ですので、依存症の問題についてお困りのご家族は、当センター依存症相談窓口（TEL：052-483-3022）までお電話ください。



令和2年4月より
開始します!

NAT-G

(なっと-ジー)

なごやギャンブル障害回復
トレーニングプログラム

ギャンブル等でお困りの方が適切な対処方法を身につけ、ギャンブル等にとらわれない生き方ができるようになることを目指すプログラムです。パチンコ、スロットや競艇、競馬、競輪等といったギャンブルの付き合い方について、一緒に考えてみませんか。

対象者 (たいしょうしゃ)

下記①②③をすべて満たす方
①名古屋市内にお住いの方 (在勤・在学を含む)
②自身のギャンブル等の楽しみ方を改めたい方
③当センターでの事前面接の結果、本プログラムを受けることが適当と認められた方

場所 (ばしょ)

名古屋市精神保健福祉センターこころば

日程 (にってい)

毎月第3水曜日 午後2時～4時

問合先 (といあわせさき)

名古屋市精神保健福祉センターこころば
依存症相談窓口／電話番号：052-483-3022
まずはお電話にてご相談ください。

内容 (ないよう)

全6回のプログラムです。

テキストを用いて集団でプログラムを行います。

【第1回】あなたのギャンブルについて整理してみましょう

【第2回】引き金から再開に至る道すじと対処

【第3回】再開を防ぐために

【第4回】私の道しるべ

【第5回】回復への道のり

【第6回】アンコールセッション

回復のために～正直さと仲間～

※NAT-Gは島根県立心と体の相談センターが開発したSAT-G（島根ギャンブル障害回復トレーニングプログラム）のテキストをベースとしています。

依存症 講演会

いぞんしょう
こうえんかい



令和元年10月12日（土）に予定していました依存症講演会は台風19号の接近により、やむなく中止とさせていただきました。今回は、俳優・映画作家である内山正典氏による一人芝居と講演を予定していました。薬物依存症に苦しんだ自身や弟の実体験に基づいた興味深い内容で、中止となったことは非常に残念でした。なお、内山さんの初監督作品となる薬物依存をテーマにした映画「まっ白の闇」は、2017年「第9回日本芸術センター映像グランプリ」を受賞しています。令和2年度も依存症講演会を企画します。詳細が決定しましたら、広報など等でご案内する予定です。

鳴海ひまわりクリーツク
デイケア作品



精神保健福祉市民活動セミナー



現在、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の推進を目指し、誰もが地域で安心して生活をするための取り組みが始まっています。精神疾患のある方を地域で支えるため、こころの健康や精神障害について学び、市民活動ボランティアとして地域でできることを共に考えることを目的として、下記の内容で講座を開催いたしました。

日程(について)	テーマ	講師(こうし)
①10月25日	「名古屋市の精神保健福祉施策」「地域の社会資源を知る～社会福祉協議会の役割～」	市役所 障害企画課職員 名古屋市社会福祉協議会職員
②11月1日	「精神障害者の理解は誰もが暮らしやすいまちづくり」	日本福祉大学 教授 青木 聖久 氏
③11月11日	「ボランティア活動をするうえで知っておきたい精神障害について」	名古屋第一赤十字病院 医師 舟橋 龍秀 氏
④11月15日	「地域での生活を支えるために～支援者と当事者それぞれの立場から～」	障害者基幹相談支援センター職員 精神障害者ピアソーター

受講後には、フォローアップ事業として、地域の精神障害のある方が通う施設や精神科病院にご協力いただき、見学実習を行っています。見学後、自身の経験を深めること・各々の考え方や捉え方の違いを感じることを目的に、同朋大准教授の吉田みゆき氏を講師にお招きし、学んだ内容を受講者同士でまとめ、感想を共有しました。

ボランティア活動の経験の有無に関わらず様々な方が参加され、アンケートでは、「繰り返し勉強していきたい」、「ボランティアとして、相手のことを知って相手の必要なことに合わせて支援する大事さを学んだ」、「精神疾患は身边にある病気だと認識される社会になってほしい」等の声がありました。受講いただいたこと自体も、地域で暮らす精神障害のある方やそのご家族の力になるのではないかと考えています。

ひきこもり家族教室



名古屋市ひきこもり地域支援センターでは、ひきこもり状態にある方のご家族を対象に、ひきこもりに関する知識や対処法を学び、ご家族の孤立を防ぐこと等を目的とした「ひきこもり家族教室」を開催しました。全3回にわたって開催し、延べ50名の方が参加されました。

日程(について)	テーマ	講師(こうし)
①12月4日	「ひきこもりの理解と対応」「ひきこもり地域支援センターについて」「ひきこもり本人・家族からのメッセージ」	ひきこもり地域支援センター ひきこもり本人・ひきこもりの方のご家族
②12月6日	「ひきこもりと精神科医療について」「交流会」	名古屋第二赤十字病院 精神科医 竹内 浩 氏
③12月11日	「支援機関を知ろう」「交流会」	守山保健センター・なごや若者サポートステーション

参加された方の中から「ひきこもり地域支援センターや保健センターで相談できることを初めて知った。今後相談してみたい」「子どもの気持ちを想像できた」「本人を何とかしようとする前に、家族の接し方が大事」「自分と重なるところや、これでいいと思えるところがあり、話を聞いて良かった」等の感想が寄せられました。また交流会では「これまで誰にも相談できなかった。教室も勇気を振り絞って参加した」「自分が困っているわけではないと思って、少し安心した」などの発言がありました。ご家族の中にはなかなか相談に足を踏み出せない方、またひきこもり地域支援センターのことをご存じない方もいらっしゃるかと思います。今回の家族教室をきっかけに、ひきこもり地域支援センターのことを広く知つてもらい、一人でも多くの方が相談につながっていただければと考えています。

アルコール問題関係者研修



もんだいからんけいしゃけんしゅう
アルコール問題関係者研修を、保健センター、区役所、基幹相談支援センター、地域包括支援センター、ケアマネージメントセンターの職員を対象に2回連続講義を開催しました。

だい かいめ がつ にち げつ
第1回目は10月7日（月）に「アルコール依存症の基礎知識～困っているのは誰？～」と題して、西山クリニック精神保健福祉士 雲川伸正氏に講義をして頂きました。61名の方が参加しました。「依存症」は家族・周囲の人を巻き込む病気です。
アルコールが原因の「身体疾患」から受診につながっていくことが多く、家族・関係職員が「問題飲酒」という視点を持ち関わっていくことの大切さを講義して頂きました。

だい かいめ がつ にち すい
第2回目は10月31日（水）に「事例検討」を行い46名の方が参加しました。西山クリニック精神保健福祉士 雲川伸正氏、内藤千昭氏がファシリテーターとなり、グループに分かれ、本人・家族への関わり方、支援の方法などを多岐にわたり検討し、問題点を整理・発表し、講師の方々に講評を頂きました。

思春期保健関係者研修



せいしん ほけんふくし
精神保健福祉センターでは、毎年保健センター職員や区役所職員、高等学校教諭などを対象に、研修を開催しています。
今年度は、「思春期の子どもの問題行動の理解について～事例を通して考える～」と題して、名古屋少年鑑別所 愛知法務少年支援センターの地域非行防止調整官である浅野百々子氏と、地域非行防止調整官補である反中亞弓氏に講義をしていただきました。

だい かいめ がつ にち だい かいめ
第1回目を8月23日、第2回目を10月28日に開催し、合計118名の参加があり、思春期に起こる様々な問題に対する関心の高さがうかがえました。講義では、少年鑑別所と法務少年支援センターについての説明をしていただき、法務少年支援センターが担う「地域社会における非行及び犯罪の防止に寄与する」「地域とつながり、連携を深めていくとともに、専門的な知見を地域に還元する」という新しい役割について、理解を深めました。

また、思春期の子どもたちの問題行動をどう理解し支援していくかについて、事例をもとにしながら講義をしていただき、「問題行動には意味がある」という視点を持つことや、子どもたち本人のことを知ろうとする姿勢を持つことの大さを学びました。

さん か し ゃ
参加者からは、「実際の支援に役立てたい」「自分の対応を見直すきっかけになった」「問題行動だけに目を向けるのではなく、その行動の背景、理由を理解することが大切だと気付かされた」など、様々な声が寄せられました。





NPO法人 TOBEC

精神障がい者の生活支援をしています。(就労継続支援 B型)
 メンバー一人一人の課題を共に考えていくことを大切にしていきたいと思っています。
 「話す」「働く」「遊ぶ」「食べる」etc 仲間と色々な経験を重ねる中で、
 今後の生活を共に探っていきたいと思います。



to-be

みなみく にしきらちょう
南区西桜町48-7

TEL/FAX: 052-823-4718

かい しょ び か よう ど よう
開 所 日：火曜～土曜 10:00～18:00



ぼーたん

みなみく よび つぎ もと まち
南区呼続元町9-23

TEL/FAX: 052-823-9190

かい しょ び か よう ど よう
開 所 日：火曜～土曜
10:00～18:00



集(つどい)

みなみく しろ したちょう
南区域下町2-37

まゆみ荘 101・102・103・201

TEL/FAX: 052-821-6935

かい しょ び か よう ど よう
開 所 日：火曜～土曜 9:30～17:30



*詳しいことはお尋ねください。お待ちしています。【スタッフ一同】 次回は、ニコニコハウス鶴里さんです。

な ご や し せ い し ほ け ん ふ く し つ う し ん
名古屋市精神保健福祉センター通信
こ こ ら ば NAGOYA 26 号

こ こ ら ば NAGOYA



<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/>

22-5-3-0-0-0-0-0-0.html

は つ こ う び ね ん が つ は つ こ う な ご や し は つ こ う ぶ す う
発行日：2020年3月／発行：名古屋市／発行部数：2,900部
へんしゅうたんとう な ご や し せ い し ほ け ん ふ く し
編集担当：名古屋市精神保健福祉センターこ こ ら ば

〒453-0024

な ご や し な か む ら く め い く ち ょ う ち ょ う め ば ん ち
名古屋市中村区名楽町4丁目7番地の18

tel : 052-483-2095

fax : 052-483-2029